



学校教育目標を達成するための基本方針

ア 主体的に自己を高める生徒を育てるために

- (ア) 主体的、対話的で深い学びのある授業の実現に向け、校内研究を核としながら組織的に改善を図る。
- (イ) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実(令和の日本型教育の実現)を図る。また、ICTを活用し、見方・考え方を自在に働かせるとともに、探究学習につながる授業へと改善を図る。
- (ウ) 学習者が主体となる授業を行い、学び方が身に付けられるようにするとともに、知識及び技能の確実な習得を図る。
- (エ) 生徒に育成すべき資質・能力を明確にして授業改善や地域人材等の活用を推進するとともに、学校が中核となりながら地域と連携・協働するコミュニティ・スクールにより「社会に開かれた教育課程」を実現する。
- (オ) ESDを視点とした「カリキュラム・マネジメント」に取り組み、PDCAサイクルを推進するとともに、組織として学習指導の在り方を見直し、指導と評価の一体化を図る。

イ 多様な他者と協働する生徒を育てるために

- (ア) 教育活動全体を通じて、多様な他者と協働する力やコミュニケーション能力が高められるように活動の充実を図る。
- (イ) 問題解決に向けた探究的な学習のプロセスの中で、自分の考えをもったり、他者と協働し考えを深めたりできるように学習活動の充実を図る。

ウ 自他を大切にできる生徒を育てるために

- (ア) 生徒一人ひとりの人権感覚を高め、互いの人格や生命を尊重する心情や態度を育成する。また、教育活動全体を通じ、道徳教育を要として生徒一人ひとりの人格の形成や個性の伸長を図る。
- (イ) 特別支援教育に関する理解を深めるとともに、互いのよさや多様な在り方を認め合うインクルーシブな学校づくりと誰一人取り残さない教育を推進する。
- (ウ) コンサルティングの機会を活用してWEBQUの結果を丁寧に分析する等、アセスメント機能を充実させ生徒理解に努め、自他を思いやる心を育むとともに支持的な学校風土を形成する。
- (エ) いじめ、不登校及びその傾向の生徒を生まない「魅力ある学校づくり」として、授業や学校行事等の工夫や改善、居場所づくりを行うとともに、組織的な早期発見、早期対応、「いじめ見逃し0」を徹底する。
- (オ) 特別活動の拡充を図り、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を養う。
- (カ) 安全指導等を通して、安全に関する情報を正しく判断する力を身に付け、安全のために行動する実践力を育成する。
- (キ) 心身の健康の保持増進を目指し、心の発達や体の成長を適切に理解するとともに、食物アレルギーに関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付け、健康的な生活習慣を形成する。